

学校名: 栃木県立佐野松桜高等学校



EL SALVADOR

氏名: 川島 千枝

[担当教科: 英語]

- 実践教科等: 全校集会、国際理解教育
- 時間数 : 2時間
- 対象生徒 : 情報制御科3年生  
社会福祉科2年生
- 対象人数 : 1限目:690人 2限目110人

### [1]単元名

写真で学ぶエルサルバドル

### [2]単元の目的/目標 (ESD の能力・態度)

- ・エルサルバドルの日本と違った様々な光景を見たり、その説明を聞くことにより、物事の多様性について理解する。(多面的・総合的に考える力)
- ・自分たちがエルサルバドルから学べることや、日本人として出来ることについて考え、国際協力のあるべき姿に気付く。(他者と協力をする態度)
- ・エルサルバドルについて見たり聞いたりしたことについて、友人と意見交換を行う。(コミュニケーションを行う力)

### [3]ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・文化、生活様式、価値観などの違いに気付く。【多様性】
- ・お互いの国について学び合いながら共に成長して、より良い世界を創っていく大切さを知る。【連携性】
- ・世界中の人々が平和に安心して暮らせるようにするために、自分たちが出来ることを考える。【責任性】

### [4]単元の構成

時間	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【エルサルバドルってどんな国?~私の出会った中米の小さな国】 ・写真を通して、エルサルバドルという未知の国と、写真を通して出会う。 ・未知の国について知ることで、現在の自分とその生活を振り返る。 ・民族衣装とサッカーユニフォームの試着することにより、違った服飾文化を体験する。	筆者の体験談を写真を見ながら聞く: ・国の概要について ・エルサルバドルにはどんな人がいるか? ・町や村の様子 ・住居の様子 ・食文化について ・学校の様子 ・社会問題について	パワーポイント、写真、感想文用紙、民族衣装、サッカーユニフォーム、けん玉など	・興味関心を持って視聴しているか。 ・どんな感想を書いているか。
2	【写真で学ぶエルサルバドル】 ・クラスメートと話し合いをしながら写真を読み取ることで、他者と自分との物の見方や価値観の違いを知る。 ・写真から情報やメッセージを読み取ることで、自分で気付いていなかった固定観念や先入観に気付く。	フォトランゲージワークショップを通して… ・エルサルバドルと日本の共通点や相違点について考える。 ・写真を見て気付いたことを書きだしながら、グループで話し合う。	パワーポイント、模造紙、写真、マジックペン、動画など	・グループ活動に参加して、お互いに協力ができるか。 ・他人の意見がきちんと聞けるか。 ・どんな感想を書いているか。

## [5]授業の詳細

1 時限目:【エルサルバドルってどんな国? ~ 私の出会った中米の小さな国 ~ 】

○体育館にて画像を見せながら、レクチャー形式で全校生徒対象に実施。

<レクチャーの内容>

①地図上でエルサルバドルの位置を確認

②エルサルバドルの概要

③エルサルバドルの人々

どんな人種がいるのか、どんな服装をしているのか、  
どんな顔つきであるか。

④首都サンサルバドルの様子

とくに首都は発展している所とそうでない所があり、しかもそれが隣り合わせになっている。

⑤市場の様子

人々が毎日を必死に生きている姿が見られる。

⑥内戦の傷跡

1980-1992 年の内戦中に銃弾が撃ち込まれた壁のすぐそばで、人々が普通に暮らさず、内戦の凄まじさが伝わってくる。

⑦交通事情

トラックが荷台に大勢の人を乗せて走行していたり、家畜の群れが車道を歩いている。

⑧治安について

建物の壁の落書きがしてあり、家屋の塀の上には有刺鉄線が張ってある。

⑨へき地の様子

道は舗装されておらず、都市部と農村部の格差がはっきり見られる。

⑩一般家庭の住居

使用している家電製品などが非常に簡素である。

⑪学校の様子

日本の学校との相違点もあれば共通点もある。

⑫食文化について

エルサルバドルでの主食はトウモロコシの粉でできたトルティーヤとかププサである。

⑬美しい街スチット

落ち着いた古い街で、古い建物や教会が情緒豊かで非常に美しい。

⑭考えてみよう

- ・エルサルバドルが抱えている様々な問題は誰の責任か？
- ・私たちに出来ることは？

.....  
ココがポイント!

.....  
一方的なレクチャーにならざるを得ないので、可能な限り多くの写真を見せながら説明は手短に行う。生徒の反応を大切にしながら、話を進める。  
.....

<生徒の感想>

\* 驚いたこと

- ・コメが主食でない!
- ・家の屋根の有刺鉄線!
- ・トラックの荷台に人が...
- ・壁に銃弾の跡がある!



\* 印象に残った画像

- ・貧しい中でも子どもたちは楽しそう。
- ・子どもたちはどの国でも変わらない。
- ・子どもたちが楽しそうに笑顔で走っている。
- ・市場に果物が沢山あってうらやましい。
- ・フルーツがとても美味しそう。
- ・揚げたバナナを食べてみたい。



### \* 感想文より

今日は、中米の日本と言われているエルサルバドルという国の話を聞くことができました。日本では当たり前に行っていること、法律、治安、移動手段など沢山の事柄が適切に定められていなかったり、不十分であることを知ることができました。そんな中でも、楽しんで不便を感じないで暮らしている人々の姿を見て、励まされました。それでも、同じ人間で国が違うということで不公平があるのはおかしいと感じました。将来、そういった点で改善してほしいと思いました。(3年男子X)

首都サンサルバドルの表通りと裏通りの雰囲気が、全く違って驚きました。また、発展途上国ということは発展に向かっているということであるが、スラム街に直接影響を与えるのはまだまだ先の話になってしまうと思いました。この国が早く発展し、住みやすいより良い国になってほしいです。(3年男子Y)

エルサルバドルの人たちが着る服装がとても可愛かったです。学校では自分の教科書がなくて、毎日借りて使っているなど日本と違うところがたくさんあって、少し驚きました。他の国のことを知ることはとても勉強になりました。(3年女子J)

発展途上国だからこそ、これから得意な分野や文化を世界に広めていってほしいです。(2年女子Q)

### ○代表生徒による女性の民族衣装、ナショナルチームのサッカーユニフォーム試着・披露

### ○日本のものとよく似ている玩具(けん玉、ヨーヨー、コマ)の紹介



### 2 時限目:【写真で学ぶエルサルバドル】

○3年情報制御科(工業系)2クラス、2年社会福祉科1クラスにて実施

○それぞれのコースの実情に適したテーマで実施。情報制御科では、サンサルバドルの国立工業技術高校で入手した写真や情報を基に、「エルサルバドルの職業教育について」、社会福祉科では、チャラテナンゴ県パライソ保健所で入手した地域リハビリテーションと障害者の事情に関する情報やラパス、プラヤ・アマテカンポ小中学校での防災教育の写真などを基に「エルサルバドルの社会福祉と学校」というテーマでフォトランゲージを中心としたワークショップをクラス単位で行った。

### ○授業実践案

#### 1. アイスブレイキング(5分) “部屋の四隅”

- ①4つの選択肢を想定した質問のどれかに自分が該当するかを考える。
- ②教室の4隅にそれぞれ4つの選択肢を割り振り、自分の該当する場所へ移動する。
- ③非常に多くの人が集まったコーナーやほとんど集まらなかったコーナーを中心に理由を述べる。

<期待される効果>

- ・生徒が安心して発言できる肯定的な雰囲気ができる。
- ・他者の意見や価値観を受け入れられる雰囲気ができる。

#### 2. ワークショップ “フォトランゲージ”(15分)

- ①5人グループを作る。
- ②模造紙に貼られた2枚の異なる関連のある写真を見ながら自分の感じた印象や疑問点を書きだす。
- ③グループで話し合いながら写真に題名をつける。

<期待される効果>

- ・写真に写っている人の立場に立ち、共感的な理解や想像力が高まる。
- ・写真から情報やメッセージを読み取ることができる。
- ・メディアに対して批判的な見方ができるようになる。

3. 発表&解説(15分)

①各グループでまとめたものを発表する。

②ファシリテーター(筆者)による解説+使用した写真と関連する動画の上映を行う。

<期待される効果>

- ・自分の答えに隠された固定観念や先入観に気付くことができる。
- ・発展途上国の様々な事情について理解を深められる。

4. まとめ(10分)

今回のワークショップについて振り返り、まとめる。

<期待される効果>

- ・今回のワークショップで学んだことが整理でき、新たな疑問点が残る。

.....  
 ● **ココがポイント!**  
 ● ・参加型のワークショップを行う場合、アイスブレイキングは結構大切!  
 ● ・「部屋の四隅」を行うことで、参加者の属性がわかる。  
 .....



フォトランゲージワークショップ

<活動例1>社会福祉科2年生で実施

お菓子売りのおじさん

このハンドル動くの?

何が入っているの?

お金?

音なるの?



お父さん?

名前は?

夏かな~?



どこ見てんの? オムツ? 指食べるん? マヨネーズ?

写真の男性は、5年前に木から落下し脊椎を損傷し寝たきりの生活を送っていた。JICA ボランティアの働きかけにより、天井から吊るしたヒモを使って起き上がる訓練から始め、現在では手でこぐ車いすでの外出が可能になった。模造紙に写真から読み取れたことを書き終えた後に、この男性がこの車いすです仕事(お菓子の販売)に出かけるところを映した動画を上映した。生徒たちは、自分たちが実習で使う最新の車いすとは違い、木製の殆ど手作りのような車いすが上手い具合に動くことに驚きを隠せなかった。エルサルバドルでは、介護保険などもなく、障がい者に対する意識はまだまだ低いということを生徒に伝えた。また、この男性は38歳で、横にいる女の子は娘ではなく孫である。同時に生徒たちは、結婚や出産の年齢に対する考え方の違いについても学ぶことができた。

<感想>

日本とは違って、福祉に対する考えが広がっていないことが分かりました。日本人ボランティアによって、手こぎ車いすでの外出が可能になった人がいて、そのような障がい者や高齢者の方が増えてほしいと思いました。そのためにも、ボランティアや援助が必要だと思いました。(2年女子Z)

### <活動例2>

- ・工具や部品がむき出しである
- ・工業高校、松桜と同じ
- ・工具なども日本と同じ
- ・自分たちも同じことをしている
- ・ねじを切っている、外でやっているみたい
- ・授業をしている
- ・何かの木
- ・壁にポスターのようなものが貼ってある(英語のポスター?)
- ・外国の工業高校

・鉄骨むき出し



工業高校の実習風景と授業風景の写真を見ながら、生徒たちは相違点よりも共通点を努力して探していた様子だった。中には、写真の中の人物になりきっている生徒もいた。発表のあとに、エルサルバドルの工業高校の生徒の卒業後の進路や学校のカリキュラムの問題点(実習が中心で座学が少ないなど)について話をした後、現地の生徒がインタビューを受けて、流ちょうな英語で受け答えをしている動画を上映した。

### [6]児童・生徒の反応/変化

授業実践1時間目を実施した日のことである。45分の短縮で、通常授業を6時間目まで受けた後、生徒たちは全校集会ということで体育館に集められ、自分たちが全く知らない国の話を聞かされることになり、一見戸惑っていた。筆者の話も長く、レクチャーを終えたときは、すでに4時をまわっており、多くの不平不満が出て不思議ではなかった。しかし、生徒たちは、暑い体育館の中で、一生懸命に筆者の話に耳を傾け、発展途上国であるとか、治安が悪いとか、内戦を経験しているとかいう先入観を持たずに、素顔のエルサルバドルを受け入れていた。感想文の中には、市場で売られている果物が美味しそうだとか、子供たちが楽しそうだとかなどポジティブな意見が多くみられた。エルサルバドルが抱えている社会問題についても話題にしたが、それらが改善できるように何か協力したい、ボランティアは大切だというような意見が感想文の中に見られた。

生徒たちが、未知の国であるエルサルバドルについて僅かでも知ることが出来たのは、大きな収穫だった。筆者が授業を担当しているクラスでは、生徒たちにエルサルバドルについてもっと沢山話してほしいとせがまれたり、授業を担当していないクラスの生徒たちからさえも「エルサルバドル」という代名詞で呼ばれることもある。ある生徒が、一昨年修学旅行で行った沖縄のアメリカンビレッジで購入したTシャツが made in El Salvador だったことに気付いて、それを見せに来てくれた。

昨今、世界中の多くの珍しい国がテレビ番組をはじめ様々なメディアで頻りに紹介されており、エルサルバドルの写真を見せても、正直なところ生徒たちは、それほど感動したり驚いたりはないと思っていた。しかし、自分たちの学校の教員が現地に出向き、無事帰国して、その体験を笑顔で語っている姿を見て、そのエルサルバドルという国が生徒たちにとって特別に身近な存在となり、その国に対してポジティブな印象を持つことができるのだと感じた。

### [7]授業実践の成果と課題

今回の教師海外研修ならびにその後の授業実践で、筆者の国際理解教育の在り方に関する願いがある程度まで叶えられたと思う。その願いとは、外部講師や外国人に頼らずに自前で授業を行うことであり、なお且つインタラクティブをしながら、生徒も教師もお互いに学び合う形式の授業を実現させることである。外部講師や外国人の方に、国際理解の授業や講話を依頼する必要性もあるが、日頃から生徒たちと接している授業担当の教員が、自分の授業の中で、国際理解教育が継続的に実施できるということは、なお更ありがたいことである。今回は、3つのクラスでフォトランゲージワークショップを実施することが出来、参加型のグループワークとしては、取り組みやすかったように思えた。何らかのテーマについてグループで話し合うように指示をされても、なかなか出来るものではないが、フォトランゲージは、中心に写真があり、その写真の中に存在するものを通して、グループのメンバーが問題意識を持ちつつ意見交換が出来るという醍醐味が含まれているということが判明した。

国際理解教育という教科は存在はしない。また、国際理解のみを専門に指導する教員もいない。しかし、国際理解

教育というのは、どの教員も教科を問わずに指導が可能である。また、それぞれの教科によってその特性を出すこともできる。筆者の担当教科は英語であるが、今回の授業実践では、その内容を担当している教科と関連付けることがほとんどできなかった。これからの課題として、英語の授業の中に国際理解教育を取り入れ、国際理解教育の中に英語を取り入れながら、より良い授業案作成や教材作成に日々努力を重ねたいと思う。

#### **【8】参考文献(引用文献・参考資料)**

『エルサルバドルを知るための 55 章』 細野昭雄・田中高編、明石書店、2003 年

『開発教育—持続可能な世界のために—』 田中治彦編、学文社、2008 年

「アイスブレイクに部屋の四隅、授業・研修でやってみよう！参加型学習」<http://www.dear.or.jp/activity/menu01.html> (2013 年 10 月 17 日アクセス)

「フォトランゲージ、授業研修でやってみよう！参加型学習」<http://www.dear.or.jp/activity/menu05.html> (2013 年 10 月 17 日アクセス)

#### **【9】使用教材(写真／図などの実物)**



日本のものとよく似ているエルサルバドルの玩具  
ヨーヨー、コマ、けん玉



2枚の関連した写真を貼り付けた模造紙  
(フォトランゲージワークショップで使用)

その他、本文中に掲載

#### **【10】教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)**

教師海外研修は、形の上では終了するが、終了イコール本格的な出発点だと考えたい。出発前の事前研修を受けていた頃から、授業実践については悩み続けてきた。いつの間にか、その「悩む」という行為が楽しく感じられるようになってきた。2学期は、公私ともに多忙な時期だったが、授業実践と県での報告を無事に実施することができた。その準備をするにあたって、孤独な作業に膨大な時間を費やした。結果的には、ある程度満足できるものが出来たと思う。しかし、思うように出来なかった場面もあれば、せつかく時間をかけて準備したにもかかわらず出来なかったものもあった。授業実践や発表で上手かったものは氷山の一角に過ぎず、大切にしていけるべき事は、無駄な努力や失敗作など水面下に隠れている部分であると思う。

まだ引き出しの中で未公開のまま眠っているエルサルバドルで入手した情報や写真が、数多く残っている。今後も、それらを様々な形の教材に作り変えて授業の中で活用したい。